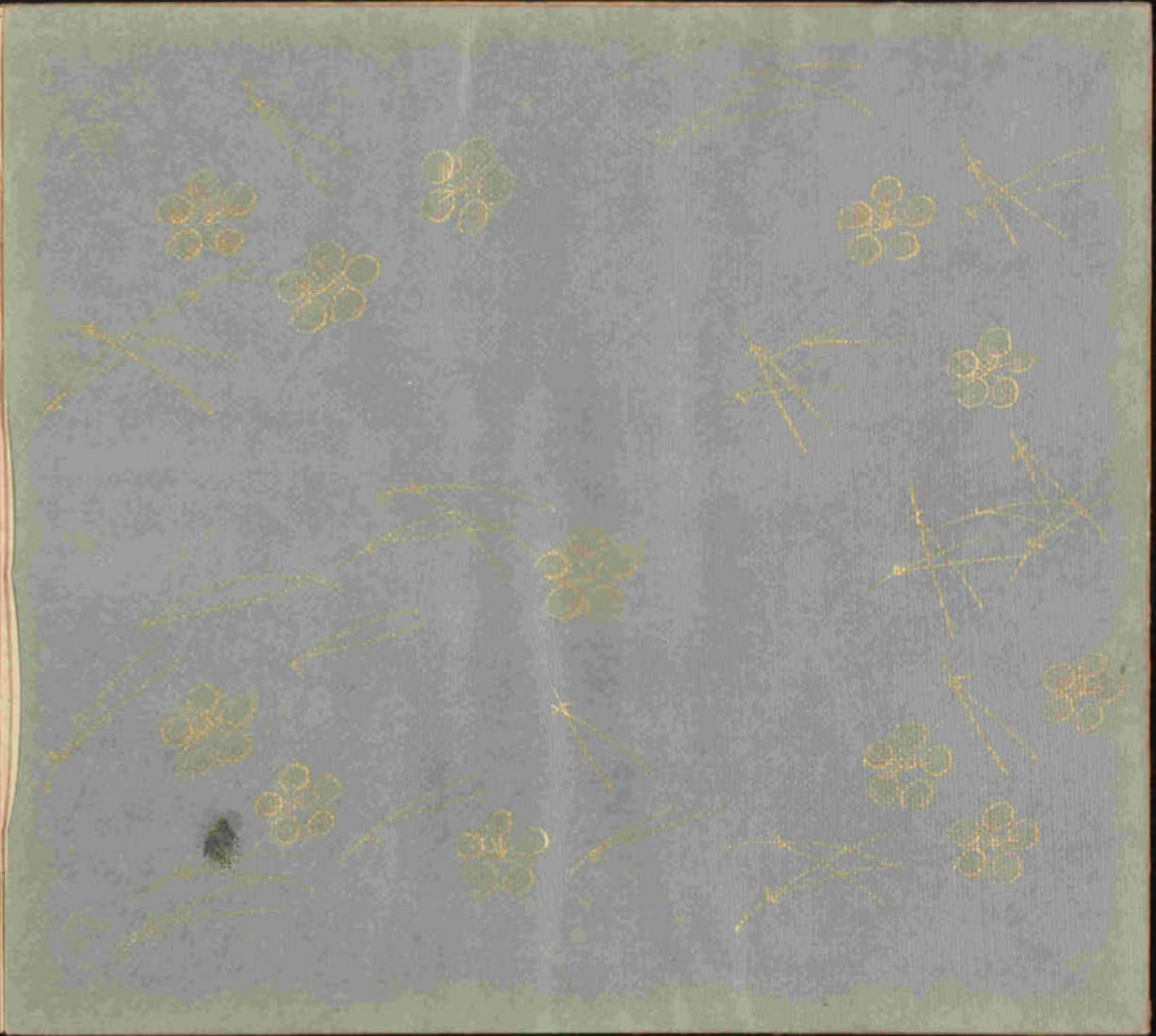


古今集序

第三註



古今和歌集序註卷之三

あつあつしなもせよはし



久しとあつあつよしとくつてあひ

りよしとあつあつ

右は云ふことかひのまはあつあつと

のんこしはしとせきしとあつあつ

仲つとらつとあつあつとあつあつ

てつとらつとあつあつとあつあつ

あつあつとあつあつとあつあつ

あつあつとあつあつ

あつたはにふはとさうさうさう  
うらりうらりうらりうらりうらり  
天地開闢の時より今もかく  
理のたまひをいふもは  
わらへりといふもは  
初めをいふもは  
久しうなりといふもは  
いふもは  
同ふといふもは

下照非のうらりうらり  
うらりうらり  
善むといふもは  
三義ありといふもは  
身をいふもは  
けつゝ過際をいふもは  
年月といふもは  
うらりうらり  
て天をいふもは  
日中記云久方天をいふもは

あつしむをさうり久くさう月  
日中りり一云云久固天と  
くさうりさの百条日本紀あるま  
如書くよあふ三災壞劫と  
時の欲界六天よりさうりて海  
山皆破壊とさうりて中野  
より大風ありて三災ありて  
ありりりり久固と云俱舍論  
取意云三災事三災といふ  
火災水災風災此三をり先

火災ハ地獄より起て中初種

但地獄火ハ地獄ヲ燒人間火ハ人間ヲ燒  
いりり 初種ノ火ハ初種燒ナリ

如世火災七方起て後水災一方

起て中二種いりり如世火災七方

よ水災一方起中水災七方

火災七十四十九方  
水災一方火災七方定

起て中三種いりりやさうりて中

種よりハ世三災ありて壊

劫中二十劫中んさうりて

十九劫ありて有信世間紙

壊しなうて一劫の恙せむは壊と  
久有情せむと云は情ありのよは  
破壊せむや破壊と云は命ありしり  
かりせむと云は有情の位あり  
草ありしと云は情なきも北極と  
多あり故に信ありせむと云は  
すしと中や経あり久回のあは  
をひとせむと云は或人のな  
久ことほは月つ黒もや廿月と  
あはせむと云は命ありしり

久ことありと云は命あり  
しは信と云は浄土ありは  
ひりらありしりせむと云は  
うして出まをせむと云は月つ  
山つ端をせむと云は命あり  
せむと云は命ありと云は勝天と  
と云はそれ月と云は月のと云は  
よひと云は天を勝天と云はと  
と云は命ありと云は命ありと云は  
と云は命ありと云は命あり

同云下照水とはるるり人とも

若云下照水とは天照大神も

御孫女も天照大神ホ天照大神ホ天照大神ホ

尊の祖也と云ふ式云下照水とは

伊弉諾伊弉冉用尊より云ふ

朝も中へ鳴ると云ふ事なり神の

娘なりと云ふ事なり伊弉諾伊弉冉

用尊家より神を世國にたと

ふ事なりと云ふ事なり高天原より

子天照大神を先使より云ふ事なり

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく



則ち方々夜々多し。又高橋命  
天稚彦の死後、かゝる御人て  
亂して神代々々しての事  
さうしてその御人たるは  
歎けはりて其神のま  
ひねりて其御人たるは  
一字れ奇のこころも物たる  
鳥百呂毛下照姫之勢、遠余鶴  
奈良怒音尾天余鳴金  
未代もその物皆神代も

よりらるる也  
同云下照姫と云は神代と云は  
久しと云はわのとりと云

答云、時代は天神の代也、其  
云神の使は相嫁さるし、其  
云也、及云稚彦の名残をさる  
云よの御人て、喪をば遣て、殯と  
し、時せしよ、味極高彦根神  
と云神のまゝ、ひよ、年、り、り



と歌うらうらうと光明てうら  
 きて二岳二谷うわつるもんをけ  
 を下照水妙事ばくようせんこ  
 て弄ようてえ岳谷を一切比  
 と心わい  
 阿妹奈屢夜し多奈波多迺  
 行奈饑勢屢多磨迺詠臺  
 磨屢迺阿奈多磨安波夜詠  
 多尔浦托和抱還須河泥臺企  
 多伽避願祿

此字のんい何とちりていほらうらうら  
 と云せれやあまこいなるたもたか  
 たあまこぞう般をるん文雅らん死  
 多る波をれりし波身はけり取せ  
 とせりり波をたなうらんゆりけい  
 わのれあらしうと云もたあわのじり  
 みされ死らうそのあいはらうら  
 らんんんんんんんんんんんんんんん  
 らんんんんんんんんんんんんんんん  
 ひんんんんんんんんんんんんんんん

わらひのさしきりひしひのさしきり  
あつちのさしきり神のさしきり  
ひしひのさしきり一書、秘考、その  
代、書也

同、書、す、わらひのさしきり  
善、云、夫、神、七、行、り、す、皆、あ、く、ま、ひ、の  
ま、は、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、の  
さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、の  
難、云、世、事、あ、り、し、り、神、の、さ、し、き、り、  
初、め、ま、は、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、

わらひのさしきり神のさしきり  
ら、し、き、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、  
ま、は、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、  
い、し、き、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、  
ら、し、き、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、  
と、謂、つ、ま、は、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、  
よ、代、ま、は、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、  
い、し、き、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、  
の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、  
い、し、き、り、の、さ、し、き、り、の、さ、し、き、り、

平にきく...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌

かみかみ...の歌



いかにしるすことしるすこと

善云天照大神乃孫孫也海童ウツクサ之  
神メカの女也亦乃帝云後天神之孫  
海童之女言不スナフ私歎ツ通情ツ者  
と云り云し天照大神之孫海童  
之神女也 同云云々國津神の女  
と云々色々々々々々の中は扱つこ  
つこつこつこつこつこつこつこつ  
こつこつこつこつこつこつこつこつ  
と云々のこつこつこつこつこつ



善云國津神乃女云々中乃他流の  
人乃中他家乃中びりて云々  
て我流中乃知し人乃云々云々  
云々將より云々云々云々云々  
神乃云々云々他家の流乃云々  
書云々乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
神乃の美乃云々云々  
同云凡古今流乃乃乃乃乃乃乃乃  
神乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
と云々乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

答云神代の中もよりあはるは  
ゆきん丸古といふは金うて奇  
よひてしてこの神代もあはるは  
付てともふこして委さるは  
行何中。P. 仍入神代をさあ  
ささくは日中記を讀し一更  
は古今の事ありて日中記  
中より。行委さ申すは  
くは是をささくは古に  
ちかむるはささくは

但天稚彦と下照姫と夫婦  
よりしは地家守誓事し  
高銘命曰天稚彦天照太神皇  
海童く神娘下照姫にお嫁て  
比は位はより神皇國津神と  
海童は神のうらまひに  
をみ天稚彦をいひし時  
果はわたりて死すは高銘命  
よりいふて死すは  
いふはちかむる神をささくは

取のりし時下照水根史之雅彦  
凡名所をきりひて云々の事して表  
をを作して位一時讀り事也

伊弉諾尊 陽神

伊弉册尊 陰神

天照太神 日神 海童之神 味耜彥根神

地神始 下照姫

天惠穗耳尊 月神 大瓊杵尊

地神三行

蛭子 西宮大明神

素盞鳴尊 出雲國杵築大江大明神

早小姫 春日

龍回坂

後秋作

彦火山見尊

此作也

女木花同邪作

大山流作

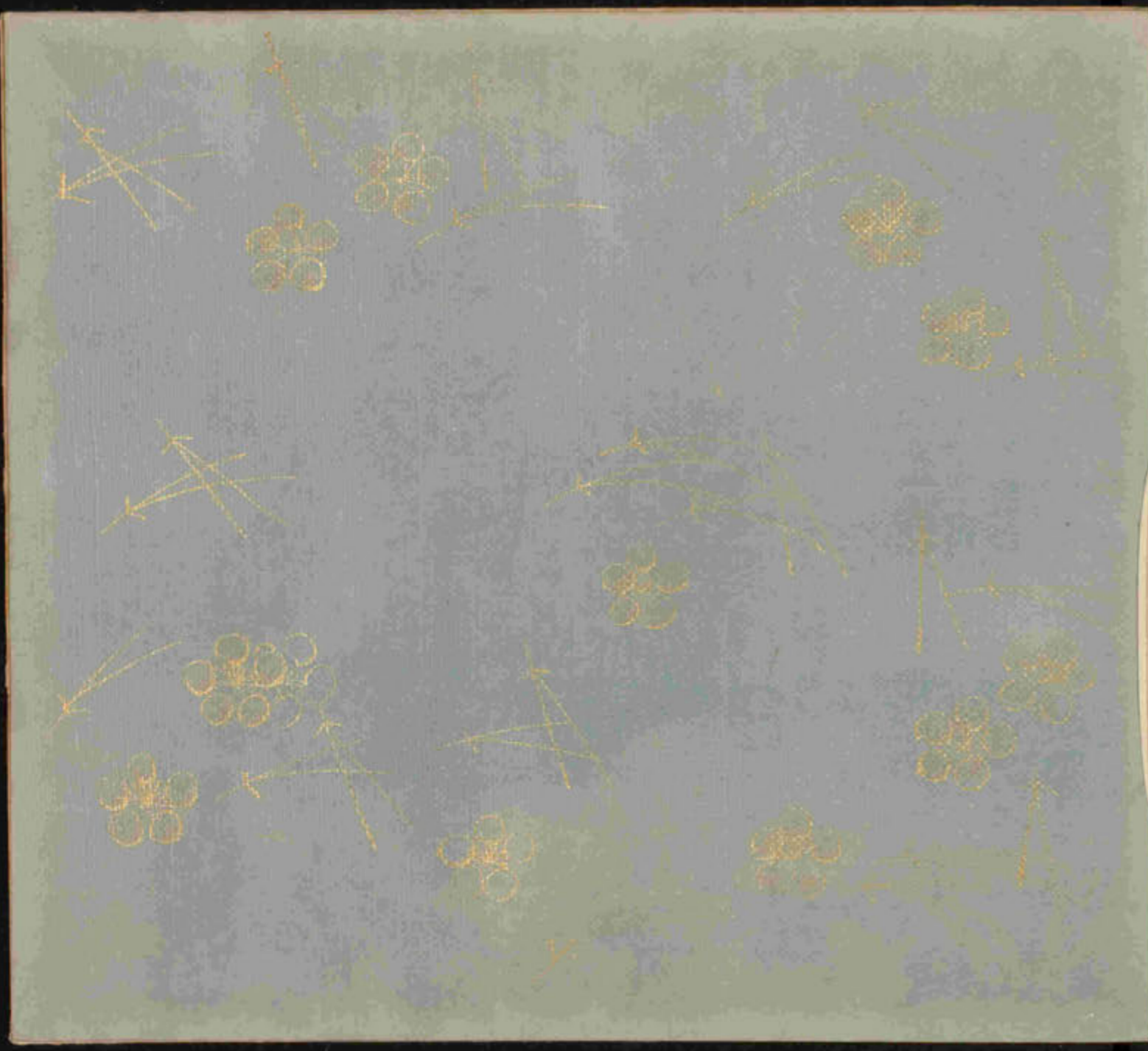
此作也

鶴羽宮不合尊

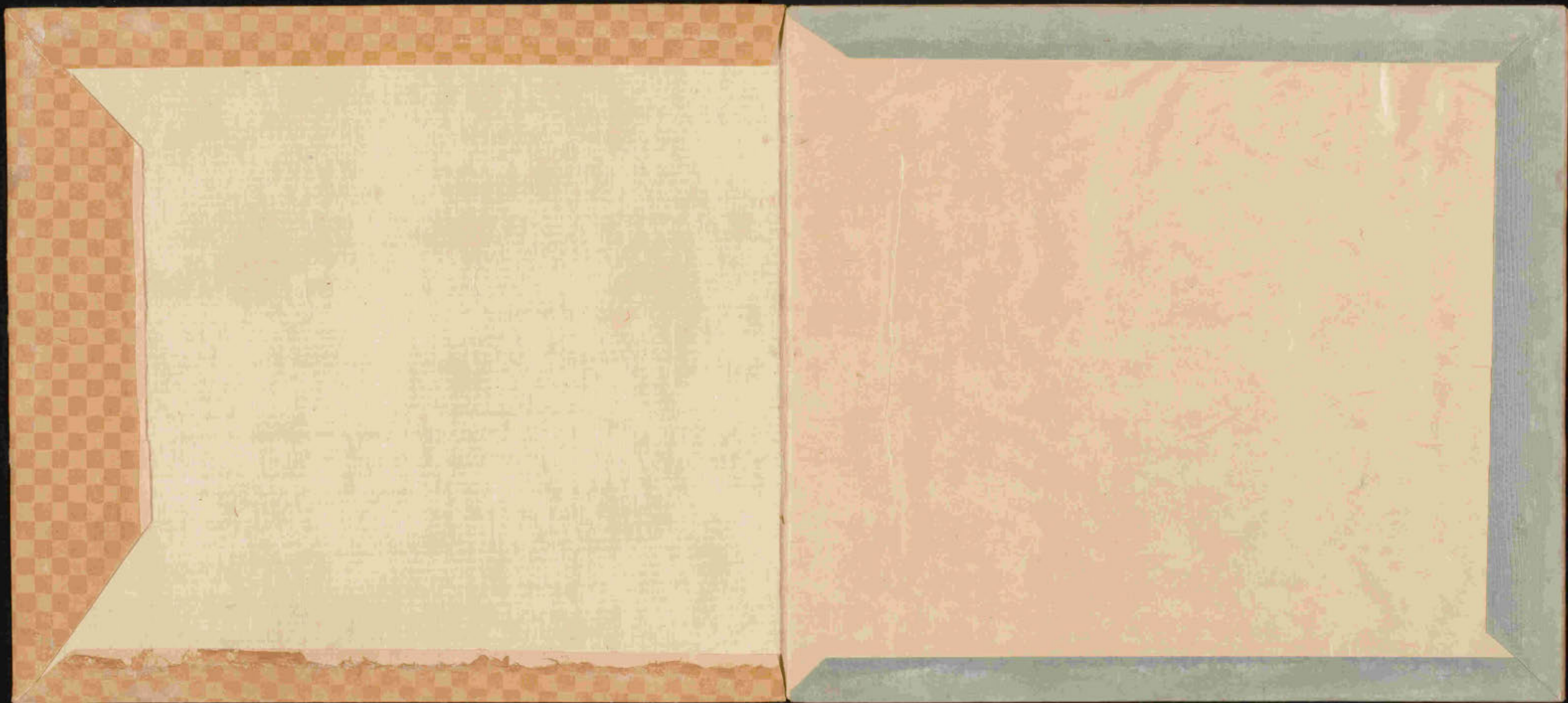
女皇玉取命

高結命

天稚彦







110X  
341  
10